

洋服の色のイメージに関する研究

○大枝近子・盛田真千子・高岡朋子・小林茂雄

（*目白学園女短大、*文化女大、‡北海道女短大、‡‡共立女大）

目的 洋服の色は我々に様々な感情効果をもたらすが、それは一般に言われている色相、明度、彩度から把握した色紙の感情効果と同じであろうか。また、色に対する嗜好は色のイメージに影響を与えるのであろうか。これらを解明することを目的に以下の調査を行なった。

方法 調査は質問紙調査法により、1996年10月～12月に実施した。調査対象者は、家政系の女子大学に通う学生323名（首都圏237名、北海道86名）である。調査内容は、あらかじめ配布した資料（Vトンの赤、緑、青、紫、黄と黒の6色のカードの生地で作成した同形のワンピース着用写真と布地を添付）を見ながら、各色のドレスに対するイメージ（SD法、15形容詞対、5段階尺度）、好きな色のドレスの順位などを回答してもらった。また、ドレス各6色のカード生地（50X50mm）を添付した資料を配布し、布のみで同様の調査を行なった。解析方法は単純集計、平均値の差の検定、因子分析法を適用した。

結果 洋服の色に関するイメージプロフィールはほぼ文献による色紙のものと同じであったが、布との比較ではかなりのイメージの差が見られた。また、各色のドレスについて好きな順位の1位と2位に答えた人と5位と6位に答えた人のその色に対するイメージ、及び各色の布での色のイメージについて、因子分析法により解析を行なった。その結果、二因子（第一因子は明るさの因子、第二因子は強さの因子）が抽出され、6色すべてにおいて、ドレスの色が好きであると回答した者は、嫌いな者よりも該当色に対して明るいイメージを持っていることや、赤、青、黄色に関しては色の好き嫌い、それが布かドレスに仕立てられているかの区別なく、それぞれ動的、静的、明るいイメージをもっていることなどが明らかになった。